

令和2年度 特別の教育課程の実施状況について

北海道：浜中町立散布小学校

1 趣旨

本校は令和元年度に北海道教育委員会から海洋教育パイオニアスクールプログラム推進校の指定を受け、3年間にわたり地域の海や水産業、地域の環境等に関する探究的な学習を進めている。

研究推進に当たり、教科の枠を超えた効果的な教育の展開が必要であることから、令和元年8月に学校や地域の特色を生かした特別な教育課程「散布学（海洋編）」の編成を文部科学省へ申請し、令和2年1月22日付けで教育課程特例校に指定されたところである。

本稿では、指定初年度である令和2年度の特別の教育課程に基づく教育の実施状況について報告する。

2 実施状況の評価方法

2020年度海洋教育パイオニアスクールプログラム実践記録集、令和2年度学校評価（児童・生徒・保護者・教職員）、完了時自己評価書、2020年度公開・授業研究会参加者アンケート、避難訓練C（津波災害）及び地域大感謝祭における児童・生徒・保護者アンケート等をもとに、PTA三役会議 兼 散布地区コミュニティ・スクール会議（令和3年2月18日実施）において令和2年度の成果や課題、今後の展望等について確認した。



3 令和2年度特別の教育課程「散布学（海洋編）」の概要

(1) 特別の教育課程の名称・テーマ

「散布学（海洋編）」～散布を誇れる子どもの育成を目指して～

(2) 目的

地域の海や水産資源と環境の結び付きについて理解するとともに、地域の発展に貢献することのできる人材を育成する。

(3) 取組内容

ア 特別の教育課程の編成

(ア) 第1～2学年

生活科、図画工作科等で海洋教育に関する地域学習を実施し、3年生以上で取り組む「散布学（海洋編）」において育む資質・能力につながる学習活動を選定

(イ) 第3～6学年

散布学（海洋編）、国語科、社会科、理科、図画工作科等で海洋教育に関する地域学習を実施し、関連する地域素材、地域人材を活用し、令和3年度の「散布学（海洋編）」の教育課程を編成

イ 公開研究会・授業研究会の実施

(ア) 令和2年9月23日(水)に公開・授業研究会を開催(参加者35名)

ウ 教員研修会の実施

(ア) 教員研修会として、令和2年5月26日(火)に「あさり掘り体験」、令和2年6月2日(火)に「あさりの生態学習」を実施

エ 保護者・地域住民を対象とした報告会の開催

(ア) 令和2年12月5日(土)に海洋教育の成果発信の場である「地域大感謝祭」を開催し、保護者を対象に取組を発表(※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため参加対象を保護者に限定)

オ 外部機関と連携した取組

(ア) 令和2年6月2日(火)に散布漁業協同組合及び北海道釧路総合振興局釧路地区水産技術普及指導所と連携し、あさりの生態や散布地区のあさり漁に関する学習会を実施

(イ) 令和2年6月8日(月)、9日(火)に散布漁業協同組合及びPTAと連携し「あさり掘り、稚貝撒き体験」を実施

(ウ) 令和2年6月22日(金)に霧多布湿原センターと連携し、藻散布海岸の生き物探しや海岸清掃を実施

(エ) 令和2年11月26日(木)、12月17日(木)に釧路新聞社と連携し、「あさり島活動」、「藻散布海岸での学習」、「散布未来予想(まちづくり)」を5・6年生が記事としてまとめる学習活動を展開

(オ) 令和3年2月12日(木)に霧多布湿原センターと連携し、海と山のつながりについて学ぶために歩くスキーで冬の霧多布湿原散策を実施



第1・2学年「藻散布海岸散策」
(R2.6.22 藻散布海岸で海の生き物探し)



第1・2学年「海の子作品展」絵画
(マリンバンク主催)



第3・4学年「散布の海の仕事を紹介しよう！」
(R2.9-10月漁港周辺見学)



第3・4学年「歩くスキーで冬の湿原散策」
(R3.2.12 霧多布湿原)



第5・6学年「散布ちよこつと未来の発表」
(R2.12.5 地域大感謝祭にて)



第5・6学年「藻散布海岸学習」
(R2.6.22 藻散布海岸で環境学習)

4 令和2年度の活動評価

(1) 自己評価

【妥当性】
今回のテーマと目標の設定は有効でしたか？
→ はい 漁業資源の枯渇や水辺環境の悪化が地域の衰退と直結する本校において、地域に目を向け、漁業を通して地域を学ぶ本校の取組は、保護者や地域住民の願いと合致しており大変有効であった。
学習内容の分量は適切でしたか？（無理のない目標・計画でしたか？）
→ はい 昨年度、教育課程内で十分な試行を行い、目標や活動内容を精選したことにより、コロナ禍の中でも適切に学習活動を行うことができた。また、海洋教育と関連する教科を整理しながら教育活動を進めることができた。
内容は対象児童・生徒のレベルに適切でしたか？
→ いいえ 各学年において児童の発達の段階に応じた学習活動を展開することができた。本校は複式校であることから、次年度は2年間を通して学びを深めることができるカリキュラムの試行・検証を行い、各教科等との関連を、より深めながら学習活動に取り組んでいく必要がある。

【有効性】
内容は計画通りに実施されましたか？
→ はい 小・中学校9年間で児童生徒に身に付けさせたい力を明確にし、「体験→探究→発信」の学びのスタイルを確立した。コロナ禍の中ではあったが、ほぼ計画どおりの内容を実施することができた。
協力要請した外部機関との連絡体制や指導内容は良好/適切でしたか？
→ はい 北海道厚岸翔洋高等学校、散布漁業協同組合、釧路地区水産技術普及指導所、霧多布湿原センター、厚岸味覚ターミナルコンキリエ（道の駅）、北海道教育大学釧路校等との連携や協力体制を構築することができ、良好かつ適切であった。
助成事業に対する地域や保護者からの理解は得られましたか？ 実施後に家庭や地域への知識や情報の広がりが見られますか？
→ はい 学校便りで取組を発信するとともに、令和2年12月5日（土）に開催した「地域大感謝祭」で、児童が学習したことを保護者に発信することにより理解が得られた。

【効率性】
学習活動の実施時期は適切でしたか？
→ はい 「あさり掘り・稚貝撒き」「魚の水揚げ作業見学」「海岸清掃（海洋プラスチックの除去）」「歩くスキー」等を季節や潮の干満を考慮し、行うことができた。
物資・資金・派遣講師（人員）の規模や質は適切でしたか？
→ はい

保護者や地域住民から物的・人的支援が得られたため、困ることはなかった。助成額も十分であった。

実施期間の設定は適切でしたか？（計画内容を設定期間内に終えることができましたか？）

→ はい

計画していた内容は、全て実施することができた。実施期間の設定は適切であった。

【成 果】

期待した成果は得られましたか？

→ はい

保護者アンケートでは「学校は子ども一人一人が自立を目指して成長できる教育活動を行っている」という質問項目において、4点満点中3.8ポイントとなり、昨年度から0.4ポイント上昇した。

学習目標と本活動との関連性は明確でしたか？

→ はい

昨年度、目標、活動、協力体制等を図式化し、関連を明確にしたことにより、保護者や地域住民の理解や協力が得られやすくなり、より一層児童の学習活動を充実させることができた。

活動は児童・生徒の海洋への関心を高める契機となりましたか？

→ はい

保護者アンケートでは「家庭学習や習い事、興味のあることなどを進んで学習している」という質問項目において、4点満点中3.2ポイントとなり、昨年度から0.3ポイント上昇した。

【持続性】

活動に必要なノウハウ・知見・技術等が教員間で共有されていますか？

→ はい

教員を対象としたあさり掘り体験やあさりの生態学習会等を通じて、活動に必要な知見等を教員間で共有することができた。

学習内容や成果物が適切に活用される（見込み）がありますか？

→ はい

今年度の活動や次年度のカリキュラムを実践記録集にまとめ、自校で活用するとともに、道内実践校、管内全小学校及び関係機関へ配付した。

学習した内容を継続・応用する仕組みは考慮されていますか？

→ はい

外部機関の人的・物的支援や協力体制の構築、教員のスキルアップ等、3年間の指定が終了した後も学習内容を継続・応用する仕組みづくりに取り組んでいる。

【信頼性】

担当教員は学習内容について十分な知識・技術を有していましたか？

→ いいえ

教員研修を通じて、必要な知識・技術を得ることができたとともに、外部機関と連携を図り、学習計画を立てる中で、教員の知見が広がった。今後は、担当教員以外にも必要な知見が広まるよう、校内の成果還元機会を増やしていく必要がある。

実施に当たり、十分な体制が整えられましたか？（教員間連携、安全対策、チェック体制）

→ はい 教頭を中心に教職員間の連携・協力体制を整えることができた。また、保護者の協力により、野外活動時の安全体制を整えることができた。
実施内容について外部公表・発信・共有していますか？
→ はい 公開研究会の実施のほか、報道各社と連携を密にし、本校の取組を広く地域に発信することができた。また、今年度ホームページを新たに立ち上げ、本校の取組を発信することができた。

(2) 児童・生徒・保護者・教職員による評価 (令和2年度学校評価 7月・12月実施)

(■ 前回よりも0.2pt以上上昇 ■ 前回よりも0.2pt以上下降 最高点4.0)

項目	No.	設 問	実施月	児童・生徒			保護者			教職員		
				小	中	平均	小	中	平均	小	中	平均
学校教育目標について	1	児童・生徒は、思いやりの心をもって友達と接している	R2.12月	3.8	3.3	3.6	3.5	3.2	3.4	3.2	3.8	3.6
			R2.7月	3.6	3.6	3.6	—	—	—	3.0	3.9	3.6
			R1.11月	3.7	3.4	3.5	3.4	3.4	3.5	3.7	3.6	
	2	児童・生徒は、家庭学習や習い事、興味のあることなどを進んで学習している	R2.12月	3.3	3.2	3.3	3.2	3.1	3.2	3.0	3.3	3.2
			R2.7月	3.6	3.2	3.5	—	—	—	2.8	2.9	2.9
			R1.11月	3.6	2.9	3.2	2.9	2.9	2.5	3.0	2.8	
	3	児童・生徒は、体を鍛えたり、毎日決まった時間に起きたりするなど、健康的な生活をしようとしている	R2.12月	3.2	2.8	3.0	3.1	2.7	3.0	3.2	3.1	3.1
			R2.7月	3.4	2.8	3.2	—	—	—	2.6	3.2	3.0
			R1.11月	3.2	2.9	3.0	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	
	4	児童・生徒は、自分で決めたことを最後までやりぬこうとしている	R2.12月	3.5	3.3	3.4	3.0	3.0	3.0	3.2	3.6	3.4
			R2.7月	3.5	3.5	3.5	—	—	—	3.0	3.2	3.1
			R1.11月	3.7	3.2	3.5	2.9	2.9	3.3	3.2	3.2	
	5	児童・生徒は、整理整頓に気を配り、身のまわりを美しくしようとしている	R2.12月	3.4	3.4	3.4	2.4	2.6	2.5	2.8	3.3	3.1
			R2.7月	3.3	3.0	3.2	—	—	—	2.6	3.0	2.9
			R1.11月	3.5	3.2	3.3	2.5	2.5	2.5	3.1	2.8	
指導について	6	学校は、わかりやすい授業をしていると思う	R2.12月	4.0	3.8	3.9	3.7	3.5	3.6	3.2	3.7	3.5
			R2.7月	4.0	3.9	3.9	—	—	—	3.2	3.4	3.4
			R1.11月	3.9	3.5	3.7	3.4	3.4	3.3	3.4	3.3	
	7	学校は、子ども一人ひとりが自立を目指して成長できる教育活動を行っている	R2.12月	3.9	3.8	3.9	3.8	3.5	3.7	3.2	3.4	3.4
			R2.7月	3.9	4.0	3.9	—	—	—	3.2	3.1	3.1
			R1.11月	4.0	3.5	3.8	3.4	3.4	2.8	3.3	3.0	
	8	学校は、子ども達の心と体が健康で安全な生活ができるように努めている	R2.12月	3.9	3.9	3.9	3.8	3.6	3.7	3.4	3.8	3.6
			R2.7月	3.8	4.0	3.9	—	—	—	3.4	3.7	3.6
			R1.11月	4.0	3.6	3.8	3.7	3.7	3.5	3.4	3.5	
地域からの信頼	9	学校は、授業参観やお便り、家庭訪問、電話、ホームページなど、家庭や地域との連携に努めている	R2.12月	—	—	—	3.7	3.8	3.7	3.4	3.9	3.7
			R2.7月	—	—	—	—	—	—	3.6	3.8	3.7
			R1.11月	—	—	—	3.8	3.8	4.0	3.8	3.9	
	10	学校は、厳しさと優しさを持ち、子ども達から信頼されるよう努めている	R2.12月	—	—	—	3.6	3.4	3.5	3.4	3.8	3.6
			R2.7月	—	—	—	—	—	—	3.4	3.3	3.4
			R1.11月	—	—	—	3.2	3.2	3.5	3.6	3.5	

～考察～

- ・設問2「児童・生徒は家庭学習や習い事、興味のあることなどを進んで学習している」の児童の保護者の回答は、昨年度から0.3ptの上昇が見られた。地域の自然や歴史、水産業等について家庭と連携した学びに取り組んできた成果であると考えている。
- ・設問7「学校は、子ども一人ひとりが自立を目指して成長できる教育活動を行っている」について、特に児童の保護者は昨年度から0.4ptの上昇が見られた。地域の未来・将来を見据えた指導の成果であると考えている。
- ・設問9・10「地域からの信頼」については、特に設問10で児童の保護者に昨年度から0.4ptの上昇が見られた。設問9については昨年度の3.8から大きな変化は見られなかったが依然として高い傾向にある。

5 各活動のアンケート結果

(1) 避難訓練C（津波災害）

ア 活動概要

(ア) 目的

平成25年3月に浜中町が策定した「浜中町津波防災マップ」では、北海道太平洋沖で津波が発生した場合、火散布地域への第1波到達は23分後、最大水位は27.0mに達する。海拔2mの本校において津波を想定した学習は欠かすことのできないものである。そこで、地震・津波の発生メカニズムの講義や実験を通して、日頃からの防災意識を高めるとともに、非常時に冷静な判断や生命最優先の行動ができる児童・生徒の育成を図ることを目的に避難訓練を行った。また、その日を自由参観とし保護者の方々にも参加いただいた。

(イ) 期日

令和2年11月7日（木）9:30～11:30

(ウ) 講師

北海道教育大学釧路校教授 境 智洋 氏 ほか学生5名

(エ) 活動内容

a 第1部「津波のメカニズム」

実験装置を使って津波と波の比較を行った。津波は「地震によって起こる」「押し波と引き波がある」「川を上がってくる」「何回もくる」ということを学習した。

b 第2部「津波から身を守るために」

2グループに分かれ、小1～4年生グループは境教授と学生による寸劇を織り交ぜた授業、小5～中3は、周辺地図をもとに「どのように避難したらよいか」を話し合う活動を行った。どちらのグループも地震が来る可能性や、津波から身を守る方法について学びを深めた。



イ 児童・生徒アンケート

学年	感想
小1	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>つなみのこわさ</u>がわかりました。 ・ <u>べんきょう</u>になった。
小2	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>つなみはとともこわい</u>ってことがわかりました。 ・ 「<u>大きいじしんがきた</u>すぐにげる」「<u>よりたかいところ</u>にいく」「<u>そこでまつ</u>」の3つは<u>ぜったいにわすれない</u>です。 ・ <u>つなみとじしんのたくさん</u>の<u>どうが</u>をみて、<u>べんきょう</u>になりました。 ・ <u>つなみはなんか</u>いもくるって<u>べんきょう</u>になりました。
小3	<ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろなことがしれてたのしかったです。
小4	<ul style="list-style-type: none"> ・ つなみについての<u>とくちょう</u>、<u>ちがい</u>などのことが知れてよかった。 ・ たのしい。いろいろなことがわかった。 ・ これから<u>おそわったこと</u>をいかしていく。 ・ 大学生たちが考えた<u>津波三カ条</u>がわかった。 ・ 津波の動画を見て、<u>いつ津波がくるか</u>分らないことを知った。 ・ 海は危ないし、<u>実験装置で本当に来た時と、実験でやった時は違うから</u>、教えてもらってありがとうございました。いろいろなことを知りました。 ・ <u>津波が来た後の動き</u>がわかった。<u>3つの言葉</u>がわかった。「逃げたらそこで待つ」「すぐ逃げる」「より高いところに逃げる」 ・ <u>あんな強い波</u>が来るとは知らなかった。<u>3カ条を守りたい</u>と思った。 ・ <u>地域の人を助けられる</u>ということがわかった。 ・ <u>地震が起きたらすぐ逃げる</u>ということがわかった。
小5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 津波の特徴や<u>いろいろな災害</u>を知って、津波の起き方がわかった。 ・ <u>津波の性質</u>がわかった。

小6	<ul style="list-style-type: none"> 津波のことについて改めて考えられた。 <u>いろいろな状況でYESとNOで意見を言ったりして楽しかった。</u> <u>津波と波の違いや、実際に水に手を入れて津波がどんなものがわかった。</u> <u>もし日常で今見たことが起こったら活用できる</u>と思うからよかった。
中1	<ul style="list-style-type: none"> <u>自分の身を守るためにいろいろな状況を想像できました。</u>すると、いろいろな意見が出てきて<u>意見を共有</u>できました。 災害などは予想できないことがあるので、<u>日頃から心の準備が必要だ</u>と思いました。 <u>津波と波の違いや、いざとなったらどうするか</u>などをしっかり学べたのでよかった。
中2	<ul style="list-style-type: none"> <u>津波と波の違いや、津波の怖さ</u>を深く知れた。 <u>手を入れて体験</u>できてすごく分かりやすかった。 とても<u>分かりやすい説明</u>だった。<u>津波の体験</u>がとてもすごかった。<u>動画もこんな感じなんだと実感</u>できた。 <u>詳しい説明</u>であったり、<u>実際に体験</u>して学ぶなど、<u>具体的に知る</u>ことができたのでよかったです。 <u>その時の状況判断</u>をしっかりと、自分の身を守ろうと思いました。 少し怖かったけど、体験できてうれしかったです。 <u>自分の身は自分で守る</u>を意識していきたいと思った。 <u>地震はこわいな</u>と思った。もし<u>津波が来たら冷静になろう</u>と思った。 もし津波が来たら、<u>まずは自分の命を守って、安全になったら助けに行きたい</u>と思った。
中3	<ul style="list-style-type: none"> 津波が来るとして、おばあさんを助ける人と助けなくて逃げた人がいて、<u>人によって考え方は違うんだなあ</u>と思いました。 <u>自分の身は自分で守る</u>ということは当たり前のことなんだということが改めて実感できた。 <u>津波と波の違い</u>をしっかりとわかったので、とても勉強になった。 津波が起きたら<u>すぐに逃げる決断力</u>が必要だと思いました。 <u>津波と波の特徴</u>に違うところがあると分かりました。

ウ 保護者アンケート

No.	感想
1	<ul style="list-style-type: none"> あらためて<u>津波の恐ろしさ</u>を知りました。<u>津波三カ条</u>をしっかりと頭に入れておきます。「<u>地震イコール津波</u>」です。大きい地震に限らず、<u>小さくてもすぐに逃げます。</u> <u>とても分かりやすく子どもたちの頭の中にしっかりインプット</u>されたと思います。どうもありがとうございました。
2	<ul style="list-style-type: none"> <u>子どもたちにはすごくわかりやすい授業</u>だったと思います。 <u>私たち親も、津波に対する行動をとれるよう心掛けたい</u>と感じました。本日はありがとうございました。
3	<ul style="list-style-type: none"> とても勉強になりました。
4	<ul style="list-style-type: none"> <u>すぐ判断することは大事だ</u>と思いつた。 <u>家庭でのルール</u>を作って、すぐ判断できるようにしておきたいと思いました。
5	<ul style="list-style-type: none"> 地震が起きて津波が来るとなったら、パニックになると思うので、<u>子どもたちと一緒に学ぶことができてよかった</u>です。 いつ来るか分からない津波について<u>いろいろな状況判断を再確認</u>できてよかったです。
6	<ul style="list-style-type: none"> 実際の体験談を見たら、子どもたちも<u>危機感をもって行動</u>できるかな? と思いました。 「いつ来るか分からない津波の準備をしっかりとしなくては」と<u>大人も考えておかなければならない</u>ですね。
7	<ul style="list-style-type: none"> <u>津波の怖さ</u>を知りました。
8	<ul style="list-style-type: none"> <u>東日本大震災の翌日が出産予定日</u>だった娘。6日遅れで生まれてきたけれど改めて津波の恐ろしさについて勉強になった。 <u>常日頃から津波の恐怖を話題</u>にし、誰一人犠牲にならないよう気を付けたいです。 <u>低学年にも分かりやすい劇</u>で、すごく勉強になりました。ありがとうございました。
9	<ul style="list-style-type: none"> <u>なかなか津波について詳しく学ぶ機会がないので、貴重な経験</u>ができてとてもよかったと思います。
10	<ul style="list-style-type: none"> 災害での<u>避難の考え方は人それぞれ</u>だと思った。実際に起こったら、<u>今、自分の考えている行動がとれるか</u>自信がないが、<u>家族で話し合うことがとても大切</u>だと思いました。

(2) 地域大感謝祭

ア 活動概要

(ア) 目的

地域の方々に感謝の気持ちを伝えることを目的とし、令和2年度は「地域を学び、地域を愛し、地域をよりよくする方策を考える姿」や「生き生きと学び発表する姿」を見せることが「感謝」になると追考し、主に海洋教育で学んだこと等を地域に発信する場とした。

(イ) 期日

令和2年12月5日（土）9：20～11：30

(ウ) 活動内容

a 小学生の取組

1・2年生は体育館にて模擬店「さかなゲームランド」を出店した。3・4年生は、「散布の海の仕事調べ」で手書きポスターとICT機器を用いた発表を行った。5・6年生は、「散布ちよこっと未来」と題し、まちづくりの構想をプレゼンテーションした。

b 中学生の取組

3班に分かれ、あさり島活動報告、散布で採れた貝殻を使った牡蠣のキャンドル作り、あさりのアクセサリ作りを行った。



イ 児童・生徒アンケート

年	感想
小1	<ul style="list-style-type: none"> ・ ぼくは、がんばってうちのアルコールをするのをがんばったり、パタパタぐるまのはしらせるのをおしえたりしました。 ・ おきやくをよぶことができた。
小2	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>あさりのアクセサリをがんばってつくりました。</u>
小3	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>人の目を見てコンプの発表ができた。</u> ・ 3まいのポスターの発表やお客さんが聞きやすく、見やすくできる発表をがんばりました。 ・ テレビやスマホを上手く使って発表できた。声が小さいと自分で気づき、二回目から大きくしました。 ・ <u>お母さんやお父さんが「知らなかった、えーそうなんだ」とかいていたからみんなに伝わってよかった。</u>
小4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人の顔を見てしっかりと話せた。大きな声を出せた。資料を使って上手く発表できました。 ・ 自分がいていたことが相手に伝わってよかった。
小5	<ul style="list-style-type: none"> ・ みんなにどうやったら伝えられるか考えて発表できるようにがんばった。 ・ <u>散布の事をたくさん調べることができた。</u> ・ 練習の時よりもうまく発表できた。 ・ みんなと協力して発表できた。 ・ 緊張しないで発表できました。 ・ <u>聞いている人がすごいと思ってくれる発表にするためにグループで協力できた。</u> ・ 大きな声で発表できた。 ・ <u>みんながなっとくできるような発表ができてよかった。</u> ・ みんなが面白いと笑ってくれてよかった。
小6	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>あさり島の事を毎年伝えていきたい。</u> ・ カキ殻のキャンドル作りで来てくれた人たちにしっかりと接客をして喜んでもらえたのが良かった。 ・ <u>カキの殻を取りに行く時にみんなで協力できた。</u>
中1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発表するペア同士で呼びかけ合って発表5分前には準備万端にできていた。たくさん模造紙に書いてもらい、自分達もたくさん書いた。 ・ 小さい子にキャンドル作りが人気だったので来年もこんな感じでやっていきたいです。 ・ <u>小学校5・6年の発表は共感しまくりでした。散布が変わればいいことたくさんあるってことを深く教えてくれた。</u>
中2	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>あさりアクセサリのように、食べ物じゃなくて散布の特産品を形に残る物として使うのもいいと思った。</u> ・ 今年は料理ができなかったのですが代わりに<u>アサリのキーホルダー作りのワークショップ</u>をやれて楽しかった。 ・ コロナが収束したら今までやってこなかったことに挑戦してほしい。<u>あさり島のよさを伝え続けてほしい。</u>
中3	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>あさりアクセサリのように、食べ物じゃなくて散布の特産品を形に残る物として使うのもいいと思った。</u> ・ 今年は料理ができなかったのですが代わりに<u>アサリのキーホルダー作りのワークショップ</u>をやれて楽しかった。 ・ コロナが収束したら今までやってこなかったことに挑戦してほしい。<u>あさり島のよさを伝え続けてほしい。</u>

ウ 保護者アンケート

No.	感想
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子供たちが一生懸命取り組んでいた。 ・ みんな楽しそうで、<u>小中で交流があるのがこの良い所だ</u>と思いました。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>中学生の物作りが楽しかったです。小学校1・2年生のアイデアがよかった</u>。すごくかわいかった。 ・ みんな一生懸命準備してきたことが伝わりました。楽しい一日でした。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>3・4年生の漁業について調べた発表、とても詳しく調べていました。</u> ・ <u>1・2年生の子が、うちわの持つところを一生懸命消毒しているのを見ました。先生の指導がしっかりしていて、安心して見る事ができました。</u> ・ <u>中学生のあさりのアクセサリ作りやカキのキャンドル作りも一緒に作っている感じがとてもよかったです。</u>
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>子供たちが一生懸命に地域の事を調べていた。</u> ・ <u>アイデアいっぱい、しっかり発表をしていた。楽しそうでした。</u>
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>コロナ禍でも工夫して各学年で考えて地域の事など発表できていて良かった</u>と思います。 ・ 子供たちの発表や作品など、感謝祭に向けて頑張ってきたんだなあと感心しました。 ・ 来年は、コロナが落ち着くのを願って、食べ物などもあればいいですね。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>学校の生活が見える！子供たちとの時間がとれる！</u> ・ 発表や出し物などおもしろかったです。 ・ ローソクやキーホルダーを自分たちで作ったりしてとても楽しかったです。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>学年ごとに来ることを一生懸命に、児童・生徒が自ら積極的に取り組んだりしている所はすばらしい</u>と思った。 ・ 内容は内緒と言われていたので、内心はコロナの影響で体験はなく発表が中心かな～と思っていましたが、自身初めてのキャンドル作りやゲームなど楽しめました。 ・ <u>5・6年の発表もとても夢がふくらむ構想で、実現出来たら良いなと本気で思いました。子供たちが将来、散布を離れても自分たちの故郷のことを誇りを持って話せるように、私たち大人も頑張らなければと改めて感じました。本人もみんなの反響がうれしかったと話していました。</u>
8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学生が小学生のお手伝いをしたりと、とてもよく面倒を見ていてすばらしいなと思いました。 ・ 新一年生の元気な姿が一番印象的でした。 ・ <u>カキの殻で作るキャンドル作り、アサリの殻で作るストラップ作り、地元で獲れる資源の再利用として素晴らしかったです。</u> ・ あさり島活動の発表は、あまり見てもらえていないようでしたので、来年はもう少し工夫が必要ですね。 ・ <u>低学年がパッケージのデザインを考え、中学年が商品の説明を考え、高学年がパッケージング、中学生は商品づくり等、みんなで一つの商品を作って販売会などはどうでしょう。</u>
9	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1・2年生と5・6年と中学しか行けませんでした。実際に体験できることが多く、夢中になる事ができて、すごく楽しく大感謝祭を過ごすことができました。 ・ <u>5・6年生は、大人が思うより良いアイデアがたくさんで、さすが高学年だな</u>と思いました。自分の意見がしっかりしていて、聞き入ってしまいました。 ・ 1・2年生は特に納豆パックで作ったやつがすごく気に入りました。 ・ 車のうちわであおぐやつや、紙コップのやつも、一生懸命さが伝わってきました。 ・ 5・6年生は、初めのころより発表することが上手になったと思います。 ・ ろうそくやキーホルダーを作る体験が実際にできて、普段できないことができて楽しい大感謝祭でした。 ・ 実際に体験できる事は続けてほしい。
10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の皆さんが参加できる感謝祭がいいですね。 ・ 子供たちの取組を発表する機会を増やして、人前で話す経験ができるといいですね。(特に高学年)
11	<ul style="list-style-type: none"> ・ カキのキャンドルがすごく楽しかったです。 ・ 子供たちととてもがんばってやりました。 ・ <u>色々なことを調べたり、勉強になりました。</u> ・ <u>コンプの知らない名前も教えてもらいましたよ。</u>楽しかったです。
12	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>アサリのアクセサリやキャンドルづくり、つくれなかったけど、つくっているのを見て、みんなが笑顔で楽しそうだった。</u>
13	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日頃の頑張りを見られてうれしかった。1年生の時より自ら動いている姿は成長したなあと感じた。 ・ 中学生の体験は工夫があって親子で楽しめた。作り方やスライド、持ち帰りのラッピングまですばらしい！！ ・ 全部に顔を出したかったが時間が足りず、アサリの発表が聞けなかったのが残念。準備して(チラシな

	<p>ど) くれていたのに申し訳なかったです…。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>他学年の子供たちも1年前より発表の仕方に成長が見られて楽しかった！ 大人になると考えもしないアイデアがたくさんあって、”できないよな？”と考えがちなことも”夢をもって”実現してほしいと思いました！</u> ・ 3・4年生の感想をふせんに書くのがいいと思いました！ その場で意見を求められて答えられなくて子供たちに申し訳なかったので…。 ・ 体験型がやっぱり親子で楽しめたので増えたら楽しいかな？ ・ 教室での発表の5分前に校内放送で子供たちに呼び込みをしてもらったらどうでしょうか？（もししてたらごめんなさい）せっかくすばらしい発表なので大勢の前で発表してもらいたい。”
14	・ キャンドルは初めて作って、うまくできなかつたけど楽しかったです。
15	・ 質問コーナーとかあったら、子供がどんな答えを出すのか聞きたかったです。”

(3) 2020年度「海洋教育パイオニアスクールプログラム」公開・授業研究会

ア 概要


(ア) 目的
令和2年度の研究成果を広めるとともに、参加者からのフィードバックによって次年度の研究の方向性の修正を図ることを目的に、公開・授業研究会を開催した。
テーマを「散布の海からの発信～散布を誇れる子供の育成を目指して～」と定め、授業公開のほかに本校の研究説明や研究協議を行った。

(イ) 日時
令和2年9月23日（水）13：05～16：00

(ウ) 時程

	12:50	13:05	13:50	14:05	14:40	15:50	16:00
	受付	授業公開 小3・4年生 「散布の海の仕事を調べよう」	休憩	説明 本校の海洋教育の 取組について	研究協議 子供こ深い学びを促す 海洋教育の実践の在り方	閉会	

(エ) 参加者 35名



イ 参加者アンケート

(ア) 授業公開① [小3・4年散布学（海洋編）「散布の海の仕事を調べよう」] について

【よかった9 ややよかった1 あまりよくなかった0 まったくよくなかった0 無回答0】

- 先生の準備、予習が大変だったことと思います。素晴らしいファシリテーションでした。子供たちの活発さにも驚きました。この先の環境・産業を担う子供たちが、将来の社会や環境へのビジョンを持ってくれることを祈ります。
- “反省”でなくて、“ふり返り”でいいと思います！ ネガティブにできなかったことを挙げ連ねるより、できたことも前向きに講評したいです！！
- 子供たちの疑問の中に、上級生（5～6年生）でも答えられる内容があったので、上下の交流のためにも話し合いの場があってもよいと思いました。
- 授業の流れもよく、子供たちの反応も素晴らしかったです。日頃の学級経営のたまものかと思います。ICTの活用があれば、時短と振り返りの時間確保につながるかと。
- 子供の課題意識をどのように引き出し、今後取り組む「課題」に高めていくかが大切だと改めてよく分かりました。また、その時、具体性を挙げていく時に、子供同士や教師の関わりが重要だと感じました。本時はよいお手本でした。
- 子供たちが生き生きしてよかった。
- 地域に根差した学習、「分からないこと、深く知らないこと」をスタートとして、学習していくスタイルがとてもよかったです。
- クラスの雰囲気がよく、子供たちが意欲的に学ぶ姿が見られた。

- 子供たちの発言を取り上げて板書する形がよかった。
- 子供たち同士で学びあう姿がみられた。
- 常陸先生ご自身が学習のプロセス、学級運営、個性の尊重をよく理解されていると感じました。また、慣れない環境や分野（地域社会、産業、自然等）に対して真剣に向き合っていると思いました。お疲れ様です。
- 児童の「自分が知っていることを発表したい」という意欲をととても引き出されていたと感じました。

(イ) 説明（本校のグランドデザイン・あさり島活動について）について

【よかった8 ややよかった2 あまりよくなかった0 まったくよくなかった0 無回答0】

- グランドデザイン：わかりやすかったです。資料の文字が多いので、スライドでは要点だけ見せていただけたらとずっと話が追いかけてほしいと思いました。目標が明確でとても良いと思います。
- あさり島活動：「散布の未来ポジティブシンキング」いいですね。10年後、20年度の海について考えてもらうきっかけはすごく大切だと思います。オリエンテーションを先輩がやるのもフィードバックとしてすごくいいと思いました。
- 中学生の動画を散布漁協のSNSで流したら、いろいろな人に見てもらえ、なおかつPRにつながるのではないかと思います。
- 大変わかりやすかったです。もう少し時間があればと思いました。
- あさり島活動の説明は、ねらいや課題、具体的取組内容がわかりやすく良かったです。
- グランドデザインでは、総合とのかかわりで、よい目標設定としている点をもっと強調したほうがよいと思いました。「どう生きるか考える」。
- とても地域に密着していて素晴らしいです。
- 9年間を見通した計画が明確に示されている。
- “発信”をキーワードに、体験・探究活動をされてこられたことが発表によってよく分かりました。一点気になったことは“環境保全”と食害生物の除去・駆除はどのように両立して扱うのか気になりました。
- 上級生が下級生に教えることで相互の学びを深められているように感じました。

(ウ) 研究協議（子どもに深い学びを促す海洋教育の実践の在り方 他）について

【よかった5 ややよかった3 あまりよくなかった0 まったくよくなかった0 無回答2】

- キーワードを3つ挙げました。“リソース（地域資源、ヒト、モノ、お金、時間）”、“つながり”、“イメージ（楽しかったという記憶、体験）”
- グループトークはよかったと思いますが、すべてグループに任せるのではなく、柱2本くらいは共通に示したほうが後の共有で生きるかと思えます。
- 柱がちよっと広すぎた気がしましたが、授業の感想も聞くことができよかったです。
- 協議内容の説明が必要。（今日の授業での地域学習を行う際のポイントだったと思うが・・・）

(エ) その他（感じたことや気付いたこと等）

- 先生も児童も皆さん活発で、とても楽しく有意義な時間でした。ありがとうございました！唯一、教職をとっていない参加者だったのではないかと思います。勉強になりました。
- 散布のことが好き、浜中のことが好きな子が増え、地域のことを誇りに思う子が少しでも多くなるよう、お手伝いさせていただきたいと思えます、今後ともどうぞよろしくお願い致します。
- ありがとうございました。とても勉強になりました。
- 大変勉強になりました。

6 成果と課題について（令和3年2月18日：散布地区コミュニティ・スクール会議で検討）

(1) 成果

- ・ 小学校1・2年生は、数多くの水辺の生きものにふれ合い、本校周辺の自然の豊かさに気づくことができた。また、それらの栄養分が海に流れ込み、魚、昆布、ウニなどの豊かな海産資源の育成に繋がり、自分たちの生活を支えていることを学ぶことができた。
- ・ 小学校3・4年生は、藻散布海岸での学習をきっかけに、「海の資源」や「散布の産業」につなげていくことができた。そして「産業に携わる人々の思い」にも触れることができ、より一層地域に誇りを持つことができた。知識と体験が結び付いた活動ができた。
- ・ 小学校5・6年生は、「散布ちよこっと未来」のテーマのもと、様々な体験活動を通して魅力ある散布のまちづくりを考える中で、自分たちの身近な環境を再発見し、さらに愛着を持つことができた。
- ・ 教職員研修では、新型コロナウイルスの影響により、例年よりは遅れた開催になったが、あさり掘り体験、生態学習会をすることができた。
- ・ 避難訓練は、児童生徒、保護者、教職員が津波のメカニズムを確認し、防災意識を高める機会となった。
- ・ 地域大感謝祭では、児童生徒が「発信」に慣れ、「海洋教育の学び」と「地域への感謝」の関連性が浸透した。中学生による参加型の催しが好評であった。

(2) 課題

- ・ 取組の大枠は今年度の継続で良いと考えるが、身近な海での遊び等を通しての関わる時間をさらに確保し、より海に対する興味関心を高めていく必要がある。
- ・ 子供たちの課題意識と探究活動につながりが生まれるようなカリキュラムの作成が必要である。また、国語（リーフレット、ポスター）、理科（水のゆくえ）、社会（土地の利用）など、海洋教育と関連を図ることができる教科を整理していく必要がある。
- ・ 今年度の活動をもとに見直しを図り、2年1巡できるよう学年や発達段階を考慮し、児童の課題意識と探究活動の推進を支えていくカリキュラムの作成が必要である。

7 令和3年度に向けて

小学校低学年においては、身近な海での遊び等の時間をさらに確保し、より海に対する興味関心を高めしていくほか、中・高学年においては、海洋の環境保全やあさり島活動をはじめ漁業の仕事への積極的な関わり等、様々な体験や探究活動を通して、地域の海や水産資源と環境の結び付きについて学び、地域の発展に貢献できる人づくりに取り組んでいきたい。